

# 座間市一周の旅 2019



2019年6月

旅のチカラ研究所 植木圭二

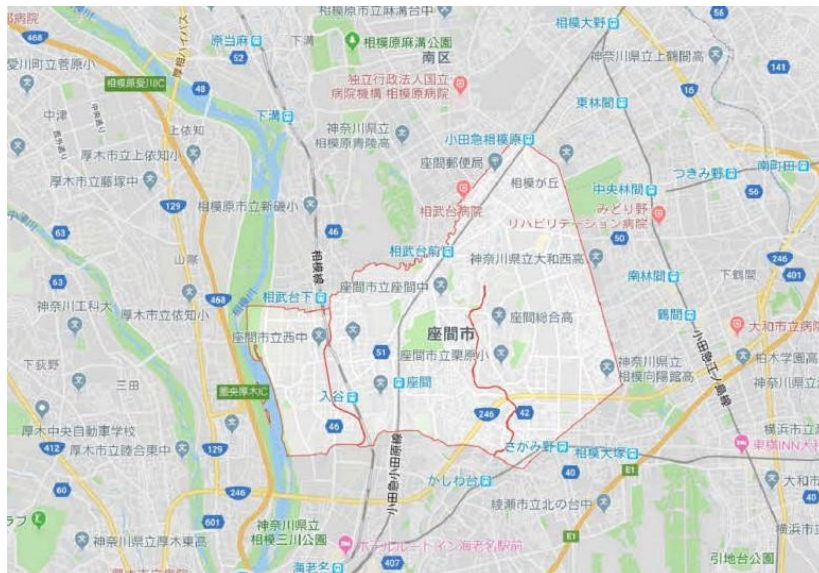
私たち夫婦は世界一周、日本一周など行ってきたが、実は自分が住んでいる市内一周はしていない。そこで今回は妻と2人で自分たちの住む神奈川県座間市一周の日帰り歩き旅をしてきた。日常のウォーキングの延長のようなものだが、記録目的にここに記す。

## ■ どんなどころを歩く

座間市は神奈川県ほぼ中央に位置し、県のほぼ中央を南北に流れる相模川に隣接する。標高は24.3m～88.7mということで標高差は約60mになる。広がり東西約5.3km、南北約4.0kmで、面積約17.6平方kmになっている。市としての面積はさほど大きくはない。人口約13万人（2019年現在）という首都圏にある典型的な地方都市だ。

私たちが歩くのは市内一周というよりも市境に沿って一周するというもので市境一周と言った方がいい。隣接する市は、北は相模原市、西と南は海老名市、東は大和市と接している。

私たちはその海老名市と接するさがみ野駅入口の交差点をスタート地点にして市境を反時計回りの歩き旅を始める。時間は朝8時30分、まだ通勤する人が多い時間帯だが、6月のこの時期は既に太陽も高く、梅雨時だというのに容赦ない日差しになっている。



## ■驚くべき光景

スタート地点の交差点を写真に収めると改めて驚くことがある。

「この光景は一体何なのだ」と私は絶句する。それは電信柱と電線と看板ばかりで、とても景観などと呼べるようなものではない。

私が最近読んだ本で、日本の景観が世界の先進国に比べてなっていないと外国人の筆者が書いていた。それは経済発展優先に開発が進んだ結果なのだろう。都市部のみならず田舎の田んぼにも工事中ブルーシートなど何の考慮もなく置かれているのも指摘しており、日本人の景観に対する意識が低いことに驚いていたことを思い出す。

実は電線は欧米の先進国に比べてだけでなくアジアやアフリカの新興国よりも悪い。それらの新興国は各建物に電力を送る電線はあるが、電話線はない。それは固定電話が普及する前に携帯電話網が整備されたので電話線が引かれていない。日本は早くから固定電話が普及したので電線以外に電話線もあり、それらが交錯しているので始末が悪い。

いずれにしても行政も工事業者も景観を意識して敷設していないのは事実だろう。



そこから海老名市との市境を北東へ歩き、そして今度は大和市との市境をなぞって北上する。電信柱の住所表示や各住宅の表札などを頼りに歩くのだが、地図で見るとはほぼ真っ直ぐな市境なのに実際はかなり入り組んでいる。ひどいところでは一軒ごとに住所が大和市と座間市と入れ替わっている。

住宅の敷地が県境や市境をまたいでいる場合には家の玄関がある方が住所になると聞いたことがあるが、恐らく市境は各家の敷地内を真っ直ぐに引かれているのだろう。

同じ市内で町内会が違うくらいではあまり問題ないが、市が異なるとゴミ収集などの住民サービスや小中学校の学区も異なるので隣近所での話題や交流にも大きく影響するだろう。

こういう地域を歩いていると隣接する市町村の合併問題は切実に感じられる。

## ■ちょっと有名な施設

相模原市に隣接した地域に入ると高校野球で有名な高校「東海大相模」が市境に面して相模原市側にある。名前が有名なことと校門や校舎が落ち着いた感じで私たちがほっとさせてくれる。

読売ジャイアンツ現監督の原辰徳の出身高校で、かつては甲子園を沸かせた名門高だ。座間市にある訳ではないのにちょっと誇らしく思うのは私だけだろうか。

ついでに、昔は漢字が似ていることから東海大相撲（とうかいおおずもう）などと揶揄されていたことを思い出す。

小田急相模原駅近辺で進路を西にとり、小田急線の西側 200m くらいに市境がある。ここも入り組んでおり、そして今まで歩いてきたところに比べればあまり平坦ではない。

しばらく歩くと在日米軍の基地「キャンプ座間」がある。相模原市との市境は基地の中を通っており、立ち入りが厳しく制限されているので残念ながら市境を歩くことはできない。

ただ、私はこの基地を数回訪れたことがある。それはこの基地の中にゴルフ場でプレーしたからで、ハンバーガーとバドワイザーを手にプレーする USA スタイルは日本にいて外国のゴルフ場のようで面白かった。いやここは USA だ、入場には厳しい検問がありパスポートも必要だった。

看板には United States Army と書かれており陸軍の司令部が置かれている。座間市の南東方向には太平洋戦争終結時にマッカーサーが降り立った厚木飛行場もあるが、そこは米海軍が使用している。私は陸軍や海軍をあまり意識していなかったが、近くにある米軍施設でも組織としては全く別だということを今回初めて知る。ただキャンプ座間と厚木飛行場の間では多くの米兵や家族が行き来をしているのは市民がよく知るところで、仲は良いのだろう。

ついでに海軍の司令部は同じ神奈川県横須賀、空軍は東京都の横田基地にある。海兵隊こそは沖縄だが首都圏西部のこの地域に陸海空の 3 軍司令部が集中しているのはたいへん興味深い。

## ■相模川周辺

JR 相模線を渡ってさらに西に歩くと土地は平らであるが、今まで歩いてきたような住宅街ではなく田んぼの中の道になる。遠くには丹沢山系の山々が見え、田植えが終わった田んぼを横目に歩き旅は心地よい。





さらに歩いて相模川に出る。海老名市との市境は相模川になっているので相模川の堤防に沿って南下を始める。堤防には桜並木が連なり、ジョギングやウォーキングをする住民たち数人とすれ違う。ここはウォーキングの穴場かもしれない。

やがて相模川から離れて四ツ谷という地域を歩いていたら面白いものを見つける。それは昔の渡し船の石碑で、そこには昭和 34 年まで渡し船があったと書かれている。ここは相模川から結構内陸に入り込んだ民家の隣地だ。相模川が移動したということだろうか。

歩いてみると意外な発見がある。

## ■ゴールへ

歩き始めて 5 時間くらい経っただろうか。私たちは緑の田んぼの中を東に歩いて、やや小高い丘を越えて国道 246 号線を横切り遅い昼食をとる。

いよいよラストスパートで相鉄線の線路を渡り、そしてまたまた線路を渡る。相鉄線のほんの一部分が座間市内を通っているということだ。そしてまたあのスタート地点の電線と看板の交差点に戻って来た。

時刻は 15 時 30 分、およそ半日の歩き旅は終わった。

市境を歩く旅は、意外に面白かった。同じ市内でも色々な場所があり、知っているようで知らないことや問題点も見えてくる。何よりも歩くことで自分の住んでいる街のサイズを肌で感じられることが良いことだろう。

次は神奈川県一周のプランが私の頭の中に浮かんでいる。

ついでに、ゴール地点から真っすぐ北上すると日産自動車の座間工場がある。市のほぼ中央に位置しているので、市境からは遠く今回のコースには入っていない。

今は工場としては稼働しておらず建物は残っているものの倉庫や駐車場として利用している。ただこの工場敷地は広大なので南の一部はコストコに、北の一部はイオンモールになっている。国内有数の自動車工場は巨大商業施設に生まれ変わったということだ。

## ■旅の記録

実施は 2019 年 6 月 18 日（火）、8 時 30 分にスタートして 15 時にゴールした。交通費はかからず総費用は 2 人分昼食代約 1000 円だった。歩行距離は事前の調査では約 20km と算出していたが、実際には約 26km で 34000 歩を歩いた。